

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

討議年月日:平成 31 年 2 月 8 日

公表:平成 31 年 3 月 18 日

事業所名 特定非営利活動法人Ami

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	遮蔽物で区分けしている	重度の発達障がいの人が多いため、施設内を物理的構造化して活動しやすい環境を作っています
	2	職員の配置数は適切である		○	受入れの制限	発達障がいの人たちを丁寧にみていくために、介護度によって受け入れ人数を調整しています
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	転倒しやすい人はスタッフが付く	発達障がいの人への合理的配慮は進めている。転倒しやすい人用に少しの段差にも段差解消のスペースを用意したい
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		スタッフ全員での意識の共有	施設長を始めサビ管、児童指導員が一体となって問題となるケースを話し合い療育の向上に努めています
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年一回実施	年一回保護者に評価していただき、その結果をスタッフで検討し療育内容の向上につなげています
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開	当事業所のホームページにて公開しています
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		運営が軌道に乗ったら考えていきます
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		専門的な研修に参加	発達障がいを中心にTEACCH、PECS、ABAの研修を中心に積極的に参加している
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		丁寧なアセスメント	利用者の障がい特性を把握するために、できる限り丁寧なアセスメントを行っています
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	専門的なアセスメントツールを使用	課題が多い人に対しては専門のツールを使ってアセスメントしているが全員ではないので、今後全員に広げていきたい
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフ全員で立案	活動の内容は本人の特性を考慮して、スタッフみんなで話し合っています
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		障がい特性に合わせた活動内容	一人一人特性が違うので、できる限り本人の障がい特性に合わせた個別プログラムを組んでいます
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		障がい特性を踏まえた課題設定	障がい特性を踏まえたうえで、受け入れ時間、季節などを考慮してプログラムを設定しています
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		障がい特性を踏まえたグループ分け	基本的には個別の活動を主体に組み立てていますが、障がい特性によって必要な場合は集団活動を入れています
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		療育リーダーが指示	療育リーダーを中心にその日に行われる支援の打ち合わせを事前にします
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日の支援の振り返り	翌日に、スタッフが前日の支援の反省をし、良かった点悪かった点を洗い出し次の支援につなげます
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		課題に対する専門的な記録	課題を持つ人に対しては、その部分の専門的な記録を取り分析しています
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に一度のモニタリング	児童期は、身体的な成長はもとより精神的にも揺れ動く機関なので、半年ごとに丁寧にモニタリングをして計画を見直しています
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		コミュニケーションと運動	コミュニケーション力の向上を図り、ダイナミックな身体運動により生活リズムを整えることを中心に、バラエティーに富んだプログラムを組んで	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		本人の状況が分かるものが参加	基本的には直接子どもたちを支援するスタッフが参加しますが、総合的な見地からの意見が必要などきはサビ管も参加します
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		保護者・学校、事業所連絡は密に	常に保護者、学校、事業所が密に連絡を取り合いトラブルの発生を未然に防いでいます
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	必要な場合は通院に立ち会い	医療的ケアが必要な児童がいないため連絡体制はないが、必要と思われる場合はスタッフが子どもたちの通院に立ち会い主治医との意見交換をしています
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		連携が採れていないので今後模索していきます
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		進路連絡会で情報を提供	本人の進路連絡会議等では積極的に支援の状況等の情報を積極的に伝えていきます。また必要な場合は、Amiでの支援を見学していただいています
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	専門医からの助言	市の児童発達支援センターがスタート間もないため、今後は連携していきます。現在は、精神科の専門医に定期的に来所していただき助言を受けています
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		発達障がいの人たちが殆どで人との関りが苦手なため、障がいのない人が多い人が多いため、交流するための前段階ですが、機会があったら交流していきます
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		障がい者施策への積極的な発言	自立支援協議会本会議のメンバーになっているので、障がい者分野の専門機関としての意見を積極的に発信しています
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		毎回丁寧に説明	保護者にも子どもたちの持つ障がい特性について丁寧に説明し、同子育てをして行ったらいいのか保護者と事業所と同じ方向で関わられるよう話し合っています
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		療育の手法を家庭に	ご家庭での課題を丁寧に聞き出し、Amiでの療育支援の方法を具体的に伝え、ご家庭でもできる方法を共に考えています	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○		支援内容やかかる費用などについての説明は丁寧にしていましたが、運営規定の説明がおろそかになったと思います。今後は運営規定にも触れたいと思います
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		障がい特性を共に考え理解する	発達障がいの人たちの特性を共に考え、何につまずいているのか、どう対応すればいいのか…を丁寧に助言しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	保護者の活動を応援	保護者会はありませんが、保護者の運営しているあみ食堂さんとは連携し互いに支え合っています
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		迅速な対応	本人や保護者からのクレームについては、直ちに法人全体で協議し対応改善をします。今回の利用までには課題をクリアするよう心がけています
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		保護者との連絡は常に密にしているが、定期提な刊行物は無く情報の発信が少ないため、今後検討していきたい
	35	個人情報に十分注意している	○		積極的な情報の発信	Amiでは、障がい理解を進めるために積極的に活動の内容をFB等で発信していますが、同意が得られない場合は全ての情報を出すことはありません。その人の障がい特性に応じてコミュニケーションの方法を考え、できる限りご本人が自己決定できるように配慮しています
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		言葉以外のコミュニケーション	おやつ作りなどで地域の高齢者の人たちにお手伝いしていただいたりしていますが、地域との連携は不十分で、今後努めていきます
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		マニュアルの整備が不十分なため、今後必要なマニュアルを整備していきます
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		生活介護の人たちは定期的に避難訓練をしています。放デイでは実施できていなかったため、今後検討していきます
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○		Amiでは本人の人格を尊重し、虐待行為は厳しく禁止していますので、これまで問題はありませんが、研修等が不十分なため今後検討しています
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		Amiでは、専門的な療育支援を展開しており、他の事業所や学校で受け入れられなかった人でも安心して活動ができています。多動で会ったり破壊行動がある人でも、これまで身体拘束が必要であったことはありません
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		特別な配慮	食物アレルギーのある人を売れ入れる当日は、居室、送迎車などを入念に掃除し、事故の発生を最大限防いでいます
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		ヒヤリハットは集めていますが、綴ってあるだけでまとめていなかったため、今後検討していきます